

---

株主各位

第133期定時株主総会  
インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書  
連結注記表  
株主資本等変動計算書  
個別注記表

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

オーベクス株式会社

上記書類は、法令及び当社定款の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより、株主の皆様にご提供しているものです。

---

## 連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から  
平成30年3月31日まで)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成29年4月1日残高	千円 1,939,834	千円 518,455	千円 2,050,326	千円 △218,951	千円 4,289,663
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△46,244		△46,244
親会社株主に帰属する当期純利益			184,146		184,146
自 己 株 式 の 取 得				△2,095	△2,095
自 己 株 式 の 処 分				1,336	1,336
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	137,901	△758	137,143
平成30年3月31日残高	1,939,834	518,455	2,188,227	△219,710	4,426,806

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額				純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
平成29年4月1日残高	千円 86,585	千円 △77,128	千円 21,677	千円 31,133	千円 4,320,797
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当					△46,244
親会社株主に帰属する当期純利益					184,146
自 己 株 式 の 取 得					△2,095
自 己 株 式 の 処 分					1,336
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△4,162	-	10,580	6,417	6,417
連結会計年度中の変動額合計	△4,162	-	10,580	6,417	143,560
平成30年3月31日残高	82,422	△77,128	32,257	37,551	4,464,358

## 連結注記表

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数	3社
連結子会社の名称	オーベクステクノロジー(株)、オーベクスメディカル(株)、 天津奥貝庫斯技研有限公司

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社	該当ありません。
---------	----------

### 3. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有 価 証 券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

##### ② た な 卸 資 産

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産  
(リース資産を除く)
- 当社及び国内連結子会社  
定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。  
また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。
- 在外連結子会社  
定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。
- |           |       |
|-----------|-------|
| 建物及び構築物   | 6～38年 |
| 機械装置及び運搬具 | 4～10年 |
- ② 無形固定資産  
(リース資産を除く)
- 定額法によっております。  
なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただしソフトウェア(自社利用分)は、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- ③ リース資産
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
- ④ 長期前払費用
- 均等償却によっております。なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金
- 売掛金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金
- 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。
- ③ 株式給付引当金
- 株式給付規程に基づく役員及び従業員への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- ④ 厚生年金基金解散損失引当金
- 当社及び連結子会社の一部が加入する総合設立型厚生年金基金の解散に伴い発生する損失に備えるため、当該負担見込額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

① 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、天津奥貝庫斯技研有限公司の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

② 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

③ 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

④ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当連結会計年度の費用として処理しております。

⑤ 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産減価償却累計額 4,255,869千円

2. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

建 物	1,216,394千円
土 地	1,508,716千円
投資有価証券	16,490千円
計	<u>2,741,600千円</u>

同上に対する債務

1年内返済予定の長期借入金	317,160千円
長期借入金	<u>2,183,046千円</u>
計	2,500,206千円

3. 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、平成14年3月31日に事業用の土地の再評価を行っております。なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成11年3月31日公布法律第24号）に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価及び第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

再評価を行った土地の当連結会計年度末に

おける時価と再評価後の帳簿価額との差額 △425,008千円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式に関する事項

当連結会計年度末における発行済株式の種類及び株式総数      普通株式      3,092,623株

(注) 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、当連結会計年度の末日における発行株式数を算定しております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	46,244	3.00	平成29年3月31日	平成29年6月26日

(注) 「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が、基準日現在に保有する当社株式1,633,800株に対する配当金4,901千円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成30年6月26日開催予定の定時株主総会の決議事項として普通株式の配当に関する議案を次のとおり付議する予定です。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会(予定)	普通株式	利益剰余金	46,218	15.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(注1) 「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が、基準日現在に保有する当社株式324,560株に対する配当金4,868千円を含んでおります。

(注2) 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。平成30年3月31日を基準日とする1株当たりの配当額は、当該株式併合後の金額を記載しております。

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資資金については必要な資金を長期の銀行借入により調達し、また、短期的な運転資金は資金需要に応じ銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、借入金の残高の範囲で利用することとしており、投機的な取引及びレバレッジ効果の高いデリバティブ取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに、また、外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年後であります。このうち一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、借入金に係る金利変動リスクのヘッジを目的として、金利スワップ取引及び金利キャップ取引を行うことがあります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金等の営業債権について、得意先与信管理規程及び売上債権管理規程に従い、取引開始時の与信調査、回収状況の継続的なモニタリング、与信限度額の定期的な見直しを実施しております。

##### ② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

市場金利の変動によるリスクを抑制するため、デリバティブ取引規程に基づきデリバティブ取引を行います。

投資有価証券については、定期的に時価や発行元の財務状況等の把握に努めております。

##### ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき管理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次の表には含めておりません（注2）を参照ください。

区 分	連結貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,418,910	1,418,910	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,259,352	1,259,352	—
(3) 投資有価証券	141,616	141,616	—
資 産 計	2,819,879	2,819,879	—
(1) 支払手形及び買掛金	510,707	510,707	—
(2) 未払法人税等	26,060	26,060	—
(3) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	2,600,206	2,571,469	△28,736
(4) リース債務 (1年内リース債務を含む)	175,848	172,513	△3,334
負 債 計	3,312,822	3,280,751	△32,071

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

### 資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっております。

### 負債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払法人税等

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 長期借入金

時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

- (4) リース債務

時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	14,699

(賃貸等不動産に関する注記)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	1,619円49銭
1株当たり当期純利益	66円79銭

(注) 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。1株当たり情報の各金額は、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から  
平成30年3月31日まで)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
平成29年4月1日残高	千円 1,939,834	千円 484,958	千円 24,346	千円 509,305
事業年度中の変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
自己株式の処分				
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-
平成30年3月31日残高	1,939,834	484,958	24,346	509,305

	株 主 資 本			
	利 益 剰 余 金		自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
平成29年4月1日残高	千円 1,692,102	千円 1,692,102	千円 △218,951	千円 3,922,289
事業年度中の変動額				
剰余金の配当	△46,244	△46,244		△46,244
当期純利益	140,071	140,071		140,071
自己株式の取得			△2,095	△2,095
自己株式の処分			1,336	1,336
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	93,826	93,826	△758	93,067
平成30年3月31日残高	1,785,928	1,785,928	△219,710	4,015,357

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計
	その他有価証券 評 価 差 額 金	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
平成29年4月1日残高	千円 86,585	千円 △77,128	千円 9,456	千円 3,931,746
事業年度中の変動額				
剰余金の配当				△46,244
当期純利益				140,071
自己株式の取得				△2,095
自己株式の処分				1,336
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	△4,162	-	△4,162	△4,162
事業年度中の変動額合計	△4,162	-	△4,162	88,904
平成30年3月31日残高	82,422	△77,128	5,294	4,020,651

## 個別注記表

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有 価 証 券

① 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法によっております。

② その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

#### (2) た な 卸 資 産

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物	6～31年
構築物	7～31年
機械装置	5～9年

#### (2) 無形固定資産

(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リ ー ス 資 産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### (4) 長期前払費用

均等償却によっております。なお、償却期間については法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

### 3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び退職積立金に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 株式給付引当金

株式給付規程に基づく役員及び従業員への当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(5) 厚生年金基金解散損失引当金

当社が加入する総合設立型厚生年金基金の解散に伴い発生する損失に備えるため、当該負担見込額を計上しております。

### 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表に関する注記)

(1) 関係会社に対する短期金銭債権	44,730千円
関係会社に対する長期金銭債権	96,000千円
関係会社に対する短期金銭債務	224,802千円
関係会社に対する長期金銭債務	4,000千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額	2,985,011千円
--------------------	-------------

(3) 担保に供している資産

建 物	932,385千円
土 地	1,389,457千円
投資有価証券	16,490千円
計	<u>2,338,333千円</u>

同上に対する債務

1年内返済予定の長期借入金	309,032千円
長期借入金	2,031,174千円
計	<u>2,340,206千円</u>

(4) 保証債務

関係会社の金融機関等からの借入金等に対する債務保証	
天津奥貝庫斯技研有限公司	49,534千円

(5) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、平成14年3月31日に事業用の土地の再評価を行っております。なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成11年3月31日公布法律第24号）に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価及び第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日	平成14年3月31日
再評価を行った土地の当期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	△425,008千円

(損益計算書に関する注記)

(1) 関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高	133,914千円
仕入高	1,755,694千円

営業取引以外の取引による取引高

受取利息	1,090千円
その他の営業外収益	1,440千円

(2) 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

売上原価	36,101千円
------	----------

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式に関する事項

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数	普通株式	335,981株
------------------------	------	----------

(注1) 資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が保有する当社株式324,560株を含んでおります。

(注2) 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。当事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、当事業年度の末日における自己株式数を算定しております。



(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

繰延税金資産

投資有価証券評価損	93千円
関係会社株式評価損	54,196千円
退職給付引当金	90,264千円
株式給付引当金	15,812千円
貸倒引当金	11,838千円
賞与引当金	11,404千円
減損損失	6,354千円
その他	24,872千円
繰延税金資産小計	214,836千円
評価性引当額	△171,000千円
繰延税金資産合計	43,836千円
繰延税金負債との相殺	△14,170千円
繰延税金資産純額	29,666千円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	30,517千円
繰延税金負債合計	30,517千円
繰延税金資産との相殺	△14,170千円
繰延税金負債純額	16,347千円

再評価に係る繰延税金負債

土地再評価差額金	31,616千円
再評価に係る繰延税金負債合計	31,616千円

## (関連当事者との取引に関する注記)

## 子会社等

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	オーベクス テクノロジー株式会社	直接 100.00%	製品の外注加工 工場等の賃貸 役員の兼務 1名	外注加工費 家賃収入	934,591 35,390	買掛金 長期預り金	85,351 4,000
子会社	オーベクス メディカル株式会社	直接 100.00%	製品の仕入 役員の兼務 1名	製品仕入 雑収入	580,203 1,440	買掛金 —	139,148 —
子会社	天津奥貝庫斯 技研有限公司	直接 100.00%	製品の外注加工 製品の販売 資金の貸付 役員の兼務 1名	売上 外注加工費 受取利息  貸付金の回収 債務保証 市場調査料	98,524 240,899 1,090  8,000 49,534 3,600	売掛金 — 1年内回収予定 の長期貸付金 長期貸付金 — 未払費用	26,640 — 8,000 96,000 — 300

- (注) 1. 取引金額には、消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。  
2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。  
3. 天津奥貝庫斯技研有限公司の債務保証は、機械のリース契約に対して行っているものであり、保証料は受領しておりません。  
4. 天津奥貝庫斯技研有限公司への長期貸付金に対し、30,000千円の貸倒引当金を計上しております。

## (1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額 1,458円53銭  
1株当たり当期純利益 50円80銭

(注) 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。1株当たり情報の各金額は、当事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

## (重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。